
無音窓

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無音窓

【コード】

N0470G

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

ちっちゃな霧が噴いている。黒い景色、映ってる。

ちっちゃな霧が噴いてる。

黒い景色、映ってる。

黒い霧が噴いている。明日も明後日も見えない。

誰かが言った、言葉は、世界中がモノトーン。

色のない世界には、視覚が要らないけれど、それでも耳は音を聴く。

小さなノイズが混じってる。

壊れたブラウン管テレビが、音になって迫ってる。

沙嵐がザアザアと、耳朶に届き、気が狂う。

音は何れ、意味をなす。

意味のない音源に、恣意的な意味を求めて、聞こえてくるのはリアル。

人は幻聴と言い、私を攻め立てて、

おまえはおかしいと言うけれど、それは何れノイズに変わる。

無音窓から覗く景色。

サイレント映画の一風景の様に、字幕が流れてる。

街に溢れるアルファベット、漢字混じり、仮名もある。偶にハン

グル、顔をだし、稀に変体仮名もある。

弁士のいない情景は、無音、無音、そして無音。

意味を汲んでみるけれど、何処か遠い幻想京。

伸ばす手には触りなく、何処までも行ける気がすると、それは障さわりあることで、今は何も欲しくない。

私の区切り取られた、無音窓が解代わり。
遥拝する遠い島。筑紫島が其処にある。
窓から伸ばす手は重い。

無音窓は囁いた。

こつち側は地獄だよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0470g/>

無音窓

2010年12月29日19時38分発行